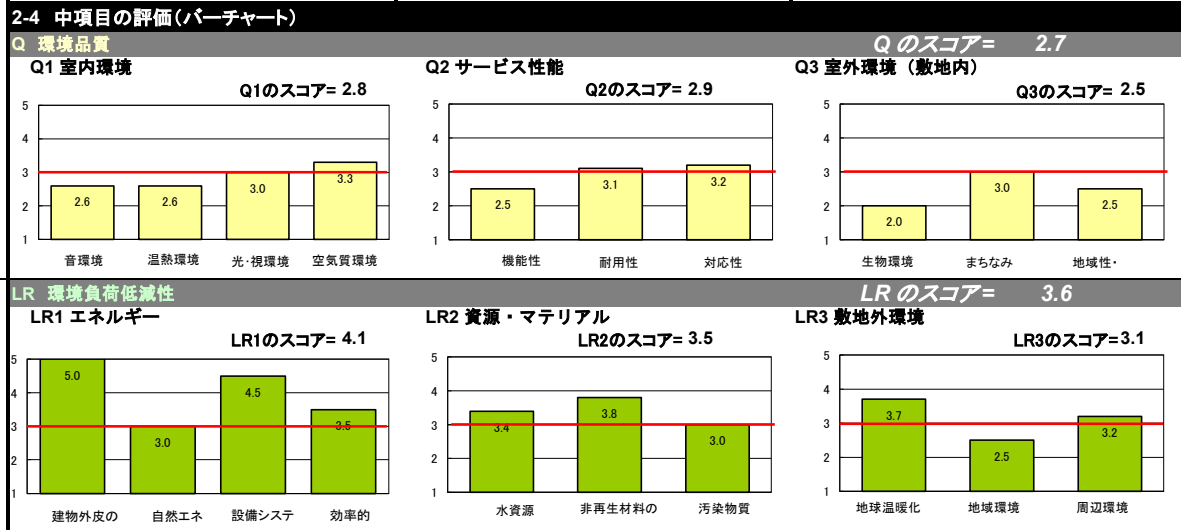
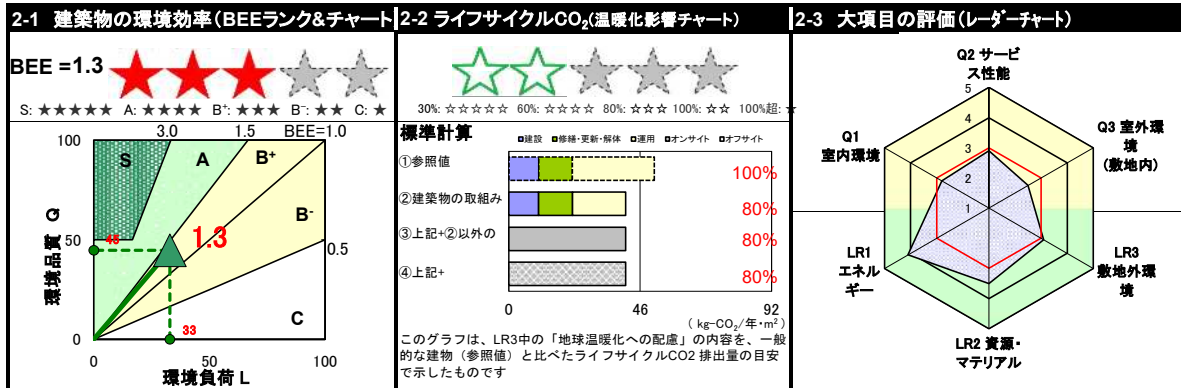


# CASBEE<sup>®</sup> あいち

## 評価結果

■使用評価マニュアル：CASBEE-建築(新築)2016年版+あいち版手引き 使用評価ソフト：CASBEE-BD\_NC\_2016(v3.0)\_AICHI

1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	学校法人中村学園 上野台幼稚園	階数	地上2階
建設地	愛知県東海市富木島町西長口70	構造	S造
用途地域	市街化調整区域	平均居住人員	400人
気候区分	6地域	年間使用時間	2,400時間/年
建物用途	幼稚園	評価の段階	実施設計段階評価
竣工時期	2025年11月 予定	評価の実施日	2025年12月26日
敷地面積	6,846 m <sup>2</sup>	作成者	佐野勢史
建築面積	1,877 m <sup>2</sup>	確認日	2025年12月26日
延床面積	2,776 m <sup>2</sup>	確認者	佐野勢史



### 3 重点項目

①地球温暖化への配慮	3.7	③敷地内の緑化	2.0	外構緑化指数(外構緑化面積/外構面積) 8.7 % 建物緑化指数(建物緑化面積/建築面積) 0.0 %
②資源の有効活用	3.4	④地域材の活用	1.0	
				<外装材に使用した地域性のある材料> なし <建物の構造材・内装材、外構に使用した地域性のある素材> なし

各重点項目は、以下の評価項目の得点により算出されています。

①地球温暖化への配慮  
LR-3 1 地球温暖化への配慮

②資源の有効活用  
Q-2 2 耐用性・信頼性、Q-2 3 対応性・更新性  
LR-2 2 非再生性資源の使用量削減

③敷地内の緑化  
Q-3 1 生物環境の保全と創出

外構緑化指数 =  $\frac{\text{中高木の樹冠の水平投影面積} + \text{低木・地被等の植栽面積}}{\text{敷地面積から建物面積(建築面積及び附属物面積)を除いた}} \times 100$

建物緑化指数 =  $\frac{\text{屋上緑化面積} + \text{壁面緑化面積}}{\text{建物によって占有された部分の水平投影面積(法定面積)}} \times 100$

みんなの環境活動を応援しています

CASBEE-建築(新築)2016年版+あいち版手引き  
学校法人中村学園 上野台幼稚園

■使用評価マニュアル:

CASBEE-建築(新築)2016年版+あいち版手引き

欄に数値またはコメントを記入

■評価ソフト:

CASBEE-BD\_NC\_2016(v3.0)\_AICHI

スコアシート		実施設計段階		環境配慮設計の概要記入欄		建物全体・共用部分		住居・宿泊部分		全体
配慮項目	独自基準	重点項目		評価点	評価点	重み係数	評価点	評価点	重み係数	
<b>Q 建築物の環境品質</b>										
<b>Q1 室内環境</b>										
<b>1 音環境</b>										
<b>1.1 室内騒音レベル</b>										
0.1 2.6 0.15										
3.0 3.0 0.40										
<b>1.2 遮音</b>										
0.4 3.0 0.40										
1 開口部遮音性能										
- 3.0 0.30										
2 界壁遮音性能										
- 3.0 0.30										
3 界床遮音性能(軽量衝撃源)										
- 3.0 0.20										
4 界床遮音性能(重量衝撃源)										
- 3.0 0.20										
<b>1.3 吸音</b>										
- 1.0 0.20										
<b>2 温熱環境</b>										
0.3 2.6 0.35										
<b>2.1 室温制御</b>										
0.5 3.0 0.50										
1 室温										
3.0 3.0 0.60										
2 外皮性能										
3.0 3.0 0.40										
3 ゾーン別制御性										
3.0 3.0 -										
<b>2.2 湿度制御</b>										
3.0 1.0 0.20										
<b>2.3 空調方式</b>										
3.0 3.0 0.30										
<b>3 光・視環境</b>										
0.2 3.0 0.25										
<b>3.1 昼光利用</b>										
0.3 3.0 0.30										
1 昼光率										
3.0 3.0 0.60										
2 方位別開口										
- - -										
3 昼光利用設備										
3.0 3.0 0.40										
<b>3.2 グレア対策</b>										
0.3 3.0 0.30										
1 昼光制御										
5.0 3.0 1.00										
<b>3.3 照度</b>										
3.0 3.0 0.15										
<b>3.4 照明制御</b>										
3.0 3.0 0.25										
<b>4 空気環境</b>										
0.2 3.3 0.25										
<b>4.1 発生源対策</b>										
0.5 3.0 0.50										
1 化学汚染物質										
3.0 3.0 1.00										
<b>4.2 換気</b>										
0.3 2.6 0.30										
1 換気量										
3.0 3.0 0.33										
2 自然換気性能										
3.0 4.0 0.33										
3 取り入れ外気への配慮										
3.0 1.0 0.33										
<b>4.3 運用管理</b>										
0.2 5.0 0.20										
1 CO <sub>2</sub> の監視										
3.0 - -										
2 喫煙の制御										
3.0 5.0 1.00										
敷地内禁煙としている										
<b>Q2 サービス性能</b>										
- - 0.30										
<b>1 機能性</b>										
0.4 2.5 0.40										
<b>1.1 機能性・使いやすさ</b>										
0.4 1.0 0.40										
1 広さ・収納性										
3.0 3.0 -										
2 高度情報通信設備対応										
3.0 3.0 -										
3 バリアフリー計画										
3.0 1.0 1.00										
<b>1.2 心理性・快適性</b>										
0.3 3.0 0.30										
1 広さ感・景観 (天井高)										
3.0 3.0 0.50										
2 リフレッシュスペース										
3.0 3.0 -										
3 内装計画										
3.0 3.0 0.50										
<b>1.3 維持管理</b>										
0.3 4.0 0.30										
1 維持管理に配慮した設計										
3.0 4.0 0.50										
2 維持管理用機能の確保										
- 4.0 0.50										
メンテナンス性・耐久性のよい仕上材の採用 水回りのメンテナンス性、清掃性を重視										
<b>2 耐用性・信頼性</b>										
0.3 3.1 0.31										
<b>2.1 耐震・免震・制震・制振</b>										
0.4 3.0 0.48										
1 耐震性(建物のこわれにくさ)										
3.0 3.0 0.80										
2 免震・制震・制振性能										
3.0 3.0 0.20										
<b>2.2 部品・部材の耐用年数</b>										
0.3 3.3 0.33										
1 躯体材料の耐用年数										
- 3.0 0.23										
2 外壁仕上げ材の補修必要間隔										
- 3.0 0.23										
3 主要内装仕上げ材の更新必要間隔										
- 4.0 0.09										
4 空調換気ダクトの更新必要間隔										
- 3.0 0.08										
5 空調・給排水配管の更新必要間隔										
- 5.0 0.15										
6 主要設備機器の更新必要間隔										
- 3.0 0.23										
<b>2.4 信頼性</b>										
0.1 3.0 0.19										
1 空調・換気設備										
3.0 5.0 0.20										
2 給排水・衛生設備										
3.0 4.0 0.20										
3 電気設備										
3.0 3.0 0.20										
4 機械・配管支持方法										
3.0 1.0 0.20										
5 通信・情報設備										
3.0 2.0 0.20										

<b>3 対応性・更新性</b>			0.2	3.2	0.29	-	-	-	3.2
<b>3.1 空間のゆとり</b>			0.3	3.4	0.31	-	-	-	
1	階高のゆとり		-	3.0	0.60		3.0	-	
2	空間の形状・自由さ	鉄骨造のため内部はすべてLGS間仕切り	3.0	4.0	0.40		3.0	-	
<b>3.2 荷重のゆとり</b>			3.0	3.0	0.31		3.0	-	
<b>3.3 設備の更新性</b>			0.3	3.2	0.38		-	-	
1	空調配管の更新性	② 配線ダクトもしくは配管を行う 配線ダクトもしくは配管を行う	-	3.0	0.17		-	-	
2	給排水管の更新性		3.0	2.0	0.17		-	-	
3	電気配線の更新性		3.0	5.0	0.11		-	-	
4	通信配線の更新性		3.0	5.0	0.11		-	-	
5	設備機器の更新性		3.0	3.0	0.22		-	-	
6	バックアップスペースの確保		3.0	3.0	0.22		-	-	
<b>Q3 室外環境(敷地内)</b>			-	-	0.30	-	-	-	2.5
<b>1 生物環境の保全と創出</b>			独自③	2.0	0.30	-	-	-	2.0
<b>2 まちなみ・景観への配慮</b>			独自④	3.0	0.40	-	-	-	3.0
<b>3 地域性・アメニティへの配慮</b>			0.3	2.5	0.30	-	-	-	2.5
<b>3.1 地域性への配慮、快適性の向上</b>			独自④	3.0	0.50	-	-	-	
<b>3.2 敷地内温熱環境の向上</b>			-	2.0	0.50	-	-	-	
<b>LR 建築物の環境負荷低減性</b>			-	-	-	-	-	-	3.6
<b>LR1 エネルギー</b>			-	-	0.40	-	-	-	4.1
<b>1 建物外皮の熱負荷抑制</b>			BPI=0.56	3.0	5.0	0.30	-	-	5.0
<b>2 自然エネルギー利用</b>				3.0	3.0	0.20	-	-	3.0
<b>3 設備システムの高効率化</b>			BEI=0.65	3.0	4.5	0.30	-	-	4.5
<b>4 効率的運用</b>				0.2	3.5	0.20	-	-	3.5
集合住宅以外の評価				1.0	3.5	1.00	-	-	
4.1	モニタリング	保安協会のデマンド監視を契約	3.0	4.0	0.50	-	-	-	
4.2	運用管理体制		3.0	3.0	0.50	-	-	-	
集合住宅の評価				-	-	-	-	-	
4.1	モニタリング		-	3.0	-	-	-	-	
4.2	運用管理体制		-	3.0	-	-	-	-	
<b>LR2 資源・マテリアル</b>			-	-	0.30	-	-	-	3.5
<b>1 水資源保護</b>			0.4	3.4	0.15	-	-	-	3.4
<b>1.1 節水</b>				3.0	4.0	0.40	-	-	
<b>1.2 雨水利用・雑排水等の利用</b>				0.6	3.0	0.60	-	-	
1	雨水利用システム導入の有無	節水器具の採用	3.0	3.0	0.67	-	-	-	
2	雑排水等利用システム導入の有無		3.0	3.0	0.33	-	-	-	
<b>2 非再生性資源の使用量削減</b>			0.6	3.8	0.63	-	-	-	3.8
<b>2.1 材料使用量の削減</b>				3.0	0.07	-	-	-	
<b>2.2 既存建築躯体等の継続使用</b>				3.0	0.24	-	-	-	
<b>2.3 躯体材料におけるリサイクル材の使用</b>				3.0	0.20	-	-	-	
<b>2.4 躯体材料以外におけるリサイクル材の使用</b>				3.0	5.0	0.20	-	-	
<b>2.5 持続可能な森林から産出された木材</b>			独自	3.0	2.0	0.05	-	-	
<b>2.6 部材の再利用可能性向上への取組み</b>			独自	3.0	5.0	0.24	-	-	
解体時に分離しやすい方法で内装を構築									
<b>3 汚染物質含有材料の使用回避</b>			0.2	3.0	0.22	-	-	-	3.0
<b>3.1 有害物質を含まない材料の使用</b>				3.0	3.0	0.32	-	-	
<b>3.2 フロン・ハロンの回避</b>				0.6	3.0	0.68	-	-	
1	消火剤		-	-	-	-	-	-	
2	発泡剤(断熱材等)		-	3.0	0.50	-	-	-	
3	冷媒		3.0	3.0	0.50	-	-	-	
<b>LR3 敷地外環境</b>			-	-	0.30	-	-	-	3.1
<b>1 地球温暖化への配慮</b>			①	ライフサイクルCO2排出率80%	3.7	0.33	-	-	3.7
<b>2 地域環境への配慮</b>			0.3	2.5	0.33	-	-	-	2.5
<b>2.1 大気汚染防止</b>				3.0	0.25	-	-	-	
<b>2.2 温熱環境悪化の改善</b>				2.0	0.50	-	-	-	
<b>2.3 地域インフラへの負荷抑制</b>			0.2	3.0	0.25	-	-	-	
1	雨水排水負荷低減	独自	-	3.0	0.25	-	-	-	
2	汚水処理負荷抑制	独自	-	3.0	0.25	-	-	-	
3	交通負荷抑制	送迎車の代替として通園バスを導入している	-	4.0	0.25	-	-	-	
4	廃棄物処理負荷抑制		-	2.0	0.25	-	-	-	
<b>3 周辺環境への配慮</b>			0.3	3.2	0.33	-	-	-	3.2
<b>3.1 騒音・振動・悪臭の防止</b>				0.4	3.0	0.40	-	-	
1	騒音	独自	-	3.0	1.00	-	-	-	
2	振動	独自	-	-	-	-	-	-	
3	悪臭		-	-	-	-	-	-	
<b>3.2 風害、砂塵、日照障害の抑制</b>			0.4	3.0	0.40	-	-	-	
1	風害の抑制		-	3.0	0.70	-	-	-	
2	砂塵の抑制	園庭を建物やフェンスで囲い、舗装は砂塵の少ないもの	-	3.0	-	-	-	-	
3	日照障害の抑制		-	3.0	0.30	-	-	-	
<b>3.3 光害の抑制</b>			0.2	4.4	0.20	-	-	-	
1	屋外照明及び屋内照明のうち外に漏れる光への対策	光害対策ガイドラインで過半、広告照明は行っていない	-	5.0	0.70	-	-	-	
2	屋外の建物外壁による反射光(グレア)への対策		-	3.0	0.30	-	-	-	

**重点項目スコアシート**

実施設計段階

■使用評価マニュアル

CASBEE: 建築(新築)2016年版+あいち版手引き

学校法人中村学園 上野台幼稚園

■評価ソフト:

CASBEE-BD\_NC\_2016(v3.0)\_AICHI

重点項目(配慮項目)		評価点	全体に対する 重み係数	重点項目スコア
<b>① 地球温暖化対策</b>				<b>3.7</b>
LR3-1	地球温暖化への配慮	3.7	0.10	
<b>② 資源の有効活用</b>				<b>3.4</b>
Q2-2	耐震性・信頼性	3.1	0.09	
Q2-3	対応性・更新性	3.2	0.09	
LR2-2	非再生性資源の使用量削減	3.8	0.19	
<b>③ 敷地内の緑化</b>				<b>2.0</b>
Q3-1	生物環境の保全と創出	2.0	0.09	外構緑化:8.7%/建物緑化:0%
<b>④ 地域材の活用</b>			(評価ポイント)	<b>1.0</b>
Q3-2 4)	地域性のある素材による良好な景観形成	0.0	-	なし
Q3-3.1 I 2)	地域性のある材料の使用	0.0	-	なし

■重点項目スコア算出式

各重点項目スコアは、以下の方法により算出されています。

①地球温暖化への配慮、③敷地内緑化

重点項目スコア=各配慮項目の評価点

②資源の有効活用 (評価点×全体に対する重み)の総和

重点項目スコア= 重みの総和

④地域材の活用

重点項目スコア=評価ポイントの合計+1

## ■ 環境設計の配慮事項

■ 建物名称 学校法人中村学園 上野台幼稚園

計画上の配慮事項	
総合	近隣住民の要望を最大限に反映した。 (匂いの発生する厨房は近隣住宅のない面に配置、近隣住宅からの離隔をできる限り確保、屋外設備機器は近隣住宅に隣接しない位置へ配置) 建物内からの騒音発生を極力抑えるような平面計画とした。
Q1 室内環境	メンテナンス性のよい仕上材を選定した。 保育室同士の騒音を抑えるため、WCや倉庫を保育室間に配置した。
Q2 サービス性能	故障が発生しても部分的に使用できるよう、中央式でなく、エリア別の空調方式を採用した。
Q3 室外環境(敷地内)	近隣への騒音へ配慮し、近接する住宅に面する園庭には防音フェンスを採用した。
LR1 エネルギー	デマンド装置を設置し、過度なエネルギー負荷とならないよう監視している。
LR2 資源・マテリアル	耐久性のよい内外装仕上材を採用することで、更新の頻度を減らす。
LR3 敷地外環境	夜間の照明は、適切な照度(近隣に光害とならず、送迎の保護者の必要となる範囲)で計画を行った。 送迎時間帯に近隣への迷惑とならないよう、正門前に大きな溜まり空間を設けた。
その他	